

エコアクション21

環境経営レポート

2023年度

(活動期間：2023年5月～2024年4月)



発行日 2024年 6月 10日

株式会社 エム・ケー・ロジテック

承認	作成
阪口	前田

< 目 次 >

< ページ >

I. 環境経営方針	2
II. 事業活動の概要	3～5
III. 環境目標とその実績	6～7
IV. 主要な環境活動計画の内容	8
V. 環境改善活動内容と 実績評価及び課題、次年度の取り組み	9～12
VI. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	13
VII. 2024年度 環境活動計画	14
VIII. 代表者による全体評価と見直しの結果	15
付1. 緊急非常事態発生時の訓練結果まとめ	
付2. 環境改善活動について	

I. 環境経営方針

＜基本方針＞

株式会社エム・ケー・ロジテックは、事業経営活動の中で、環境保全に対する取り組みを最重要課題の一つであることを認識し、地球温暖化の防止、限られた地球資源の節減及び、環境汚染防止を図るため、積極的に継続して行動します。

＜行動方針＞

1. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を図ります。
2. 基本方針を実現するため、適切な環境目的、目標を設定し、全員参加で環境保全に取り組みます。
3. 環境関連法規、規制等の要求事項を遵守します。
4. 事業活動に伴う環境負荷を正しく認識し、目標を定め、継続的な資源、エネルギーの削減、及び廃棄物の減量化を以下の項目について推進します。
 - (1) 電力使用量の削減
 - (2) 自動車燃料使用量の削減
 - (3) 廃棄物の削減
 - (4) 水道使用量の削減
 - (5) 教育の計画的実施
 - (6) サービスに関する環境配慮
5. この環境方針は全従業員に周知し、全員が理解し環境保全に務めるとともに、社会にも公開します。

改定 2021年 7月 12日

制定 2009年 6月 24日

株式会社 エム・ケー・ロジテック

代表取締役社長 阪口 宜史

Ⅱ. 事業活動の概要

1. 会社名 : 株式会社 エム・ケー・ロジテック

2. 代表者氏名 : 代表取締役社長 阪口 宜史

3. 所在地 〒674-0093

本社工場 : 兵庫県明石市二見町南二見21番地の1

第二工場 : 兵庫県明石市二見町南二見19番地の7

4. 環境活動組織及び環境管理責任者氏名と連絡先

環境活動組織 : 別紙環境活動組織図(4ページ)参照

環境管理責任者 : 総務部長 前田 知宏

連絡先 : TEL 078-949-3518

FAX 078-949-2790

5. 事業概要 (認証・登録対象工場 及び 事業活動)

① 対象工場 : 全社 (本社工場及び第二工場)

② 事業活動 : 全事業活動 (建設機械部品組立業務、
建設機械部品の受入れ・保管・払出し業務)

6. 事業規模

① 資本金 : 1,000万円

② 主要製品の出荷取扱量

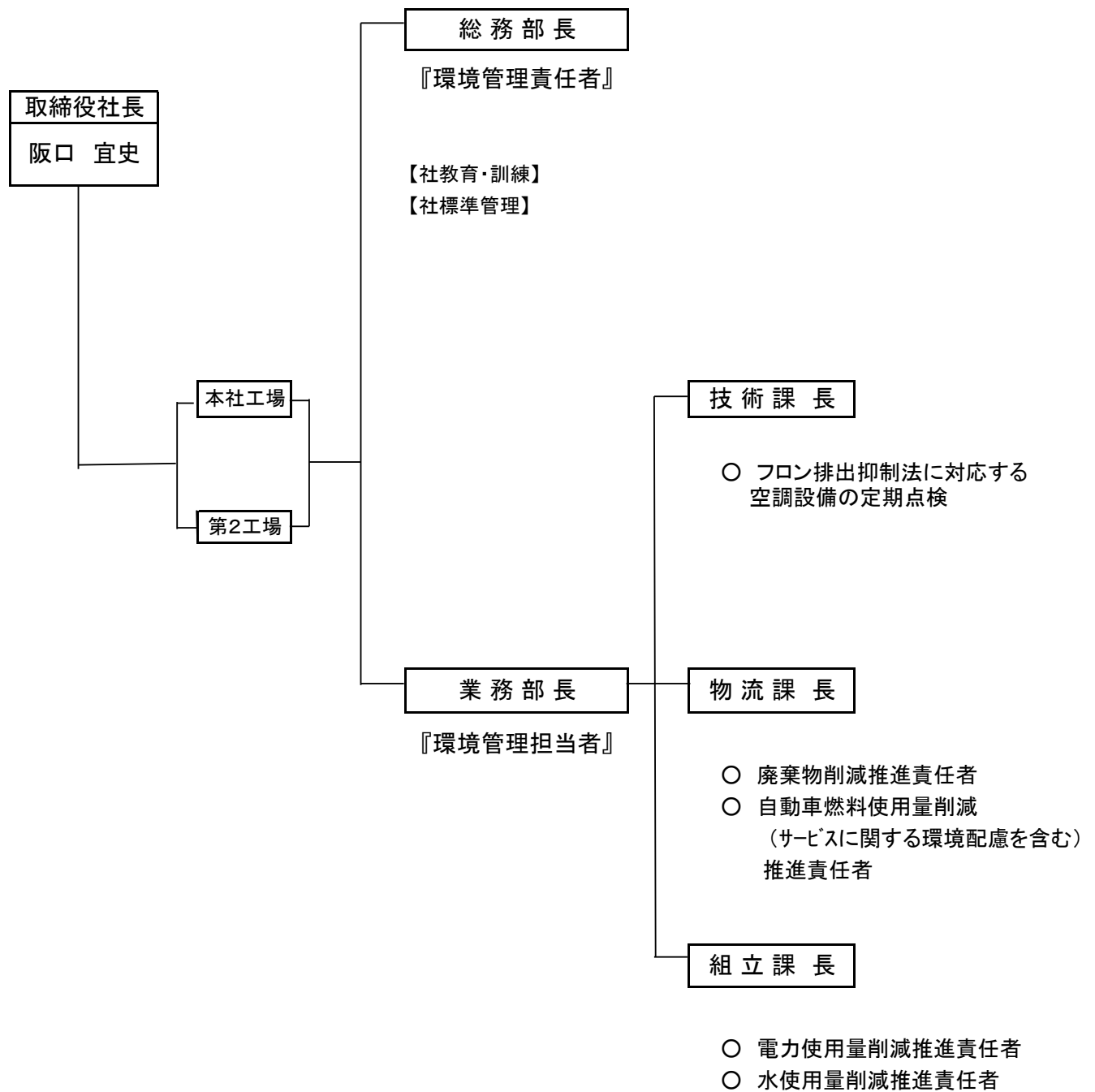
- ・ 2018年度 : 15,795 TON
- ・ 2019年度 : 13,063 TON
- ・ 2020年度 : 10,538 TON
- ・ 2021年度 : 14,781 TON
- ・ 2022年度 : 10,946 TON
- ・ 2023年度 : 4,776 TON

③ 従業員数 : 76名

④ 事業所の敷地面積 : 本社工場 6,800㎡ 第二工場 2,000㎡

⑤ 事業所の延べ建屋面積 : 本社工場 4,600㎡ 第二工場 1,200㎡

環境活動組織図



【役割・責任・権限】

	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者(社長)	①. 代表者として環境経営全般に関して責任と権限をもつ ②. 環境経営方針を策定し、従業員に周知させる ③. 環境経営目標、環境経営レポートを承認する ④. 環境経営方針・目標を達成するための資源（人・もの・金）の用意をする ⑤. エコアクション21全体の取組状況に関し評価、見直し・指示を実施する
環境管理責任者	①. エコアクション21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境面の実績を向上させる ②. 環境への負荷の自己チェックを実施する ③. 環境への取組の自己チェックを実施する ④. 環境経営目標の見直し、環境経営レポートを作成する ⑤. 上記の結果を社長に報告する ④. 環境会議の議長としてEMS全般の舵取りを行い、実行を推進する
環境管理担当者	①. EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する ②. 環境への負荷の自己チェックを実施する ③. 環境への取組の自己チェックを実施する ④. 環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する
部門長 及び 全従業員	①. 自部門の環境活動計画の策定、推進と実績の把握を行う ②. 環境方針、自部門の環境目標、環境活動計画を部門全員に周知する ③. 自部門に関連する環境関連法規制等を順守する ④. 自部門の教育・訓練を実施する ⑤. ⑤社内外の環境情報の収集と伝達をする ⑥. 自部門の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する

Ⅲ. 環境目標とその実績

(1) 目標設定

当社の主な環境目標は次の通りです。

当社の環境目標はこれまで2015年度実績を基準に設定してきましたが、実態との乖離が大きくなり、

2020年度実績を基準に、毎年0.5%ずつ改善していくことを環境目標にしています。

項 目		2020年度 実績(基準)	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
総製品生産量	(t)	10,538	－	－	－	－	－
二酸化炭素総排出量	(kg-CO2)	89,023	88,578	88,133	87,688	87,243	86,797
削減率(2020年比)	(%)	－	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
評 価		－	－	－	－	－	－
電力使用量	(kWh)	226,080	224,950	223,819	222,689	221,558	220,428
削減率(2020年比)	(%)	－	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
評 価		－	－	－	－	－	－
自動車燃料使用量	(L)	4,365	4,343	4,321	4,299	4,277	4,255
削減率(2020年比)	(%)	－	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
評 価		－	－	－	－	－	－
廃棄物排出量	(t)	7.36	7.32	7.29	7.25	7.21	7.18
削減率(2020年比)	(%)	－	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
評 価		－	－	－	－	－	－
水使用量	(m³)	785	781	777	773	769	765
削減率(2020年比)	(%)	－	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
評 価		－	－	－	－	－	－
サービスに関する環境配慮		本項目は自動車燃料使用量の中に含む					

※ 購入電力の調整後排出係数は、0.318kg-CO2/kWh(2019年、関電)にて算出しています。
電力使用量は太陽光発電(売電値)を含みます。
廃棄物排出量は、一般廃棄物(可燃ごみ)のみとする。
化学物質は使用していませんので、管理項目に入っていません。

当社で発生する産業廃棄物は、木屑(パレット)、廃プラスチックのみであり、これらは、取引先が調達・支給する部品の搬送及び部品の防塵・養生に付随して発生する廃棄物であり、これらの発生量をコントロールすることは困難である。

また、木屑及び廃プラスチック類は全て処分先で再資源化されており、リサイクル率は常に100%である。
従って上記のことを踏まえて廃棄物の目標設定は一般廃棄物に限定している。

(2) 環境目標とその実績

2020年度実績と、2023年度の目標と実績は次の通りである。

2023年度実績は、製品生産量は2020年度比で大幅に減少したことから全項目において目標を達成している。

2023年度の活動実績

評価：○(目標達成) ▲(目標未達成)

項 目		2020年度 実績(基準)	2022年度	2023年度	
			実績	目標	実績
総製品生産量	(t)	10,538	10,946	—	4,776
	%	100.0%	103.9%	—	45.3%
二酸化炭素総排出量	(kg-CO ₂)	89,023	87,915	87,688	67,030
削減率(2020年比)	(%)	—	-1.2%	-1.5%	-24.7%
評 価		—	○	—	○
電力使用量	(kWh)	226,080	232,225	222,689	168,491
削減率(2020年比)	(%)	—	2.7%	-1.5%	-25.5%
評 価		—	▲	—	○
自動車燃料使用量	(L)	4,365	3,074	4,299	2,995
削減率(2020年比)	(%)	—	-29.6%	-1.5%	-31.4%
評 価		—	○	—	○
廃棄物排出量	(t)	7.36	5.53	7.25	3.53
削減率(2020年比)	(%)	—	-24.9%	-1.5%	-52.0%
評 価		—	○	—	○
水使用量	(m ³)	785.0	724.0	773	623.0
削減率(2020年比)	(%)	—	-7.8%	-1.5%	-20.6%
評 価		—	○	—	○

※ 購入電力の排出係数は、0.318kg-CO₂/kWh(2019年、関電)にて算出しています。

※ 電力使用量は太陽光発電による売電電力量を反映しています。

《参 考》		2021年度	2022年度	—	2023年度
太陽光発電(売電量)	(kWh)	21,348.0	21,463.0	—	20,232.0

IV 2023年度 環 境 活 動 計 画

社 長	活 動 責 任 者	作 成

2023年度 環境活動計画書 & 教育計画書 兼 実施状況

重点活動項目	具 体 的 な 打 手	担当部門 (担当者)	2023 年度											
			2023/5	6	7	8	9	10	11	12	2024/1	2	3	4
1. 電力使用量の削減	1. 不必要電灯の消灯	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	2. 待機電力の削減	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	3. 削減に繋がる改善案の提案	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
2. 自動車燃料使用量の削減	1. アイドリングストップの徹底	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	2. 輸送シフトのこまめな見直し	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
3. 廃棄物の削減	1. 紙類再使用の徹底	鵜鷹	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	2. 廃棄物の分別の徹底 (廃棄 or 再利用)	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	3. ダンボール再生サイクルの徹底活用	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	4. プラスチック再生サイクルの徹底活用	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	5. 削減に繋がる改善案の提案	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
4. 水道使用量の削減	1. 手洗い時の不要流水の削減	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	2. 削減に繋がる改善案の提案	奥野、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
【教育計画】														
負荷削減活動への取り組み方	1. 使用エネルギー削減について	奥野、石村	→			→			→			→		
	2. 廃棄物削減について	奥野、石村	→			→			→			→		
	3. 環境活動レポート浸透	奥野、石村	→			→			→			→		

計画 : →

実績 : →

V 環境改善活動内容と実績評価及び課題、次年度の取り組み

2023年度(2023年5月～2024年4月)の取組内容と実績評価及び課題は次の通り。

1. 使用電力量の削減

以下の取組を実施

- (1)工場内の全面LED化(工場、事務所、会議室、食堂、トイレ等)
- (2)昼休みの全館消灯、昼休み、終業時の速やかな電源OFF徹底
- (3)各生産設備、会議室、事務所 等の電源OFF徹底
- (4)材料置場照明の昼間の電源OFF、不稼働エリアの消灯徹底
- (5)トイレ、ロッカールームの人感センサー設置による切り忘れ防止
- (6)2階事務所のエアコンにサーキュレーターフィンを設置し、効率化

設備面での省エネ対策を実施し、更に朝礼時の啓蒙活動を従来より継続

＜工場内の全面LED化＞



工場建屋



事務所



食堂

＜不稼働エリアの消灯/稼働エリアの照明＞

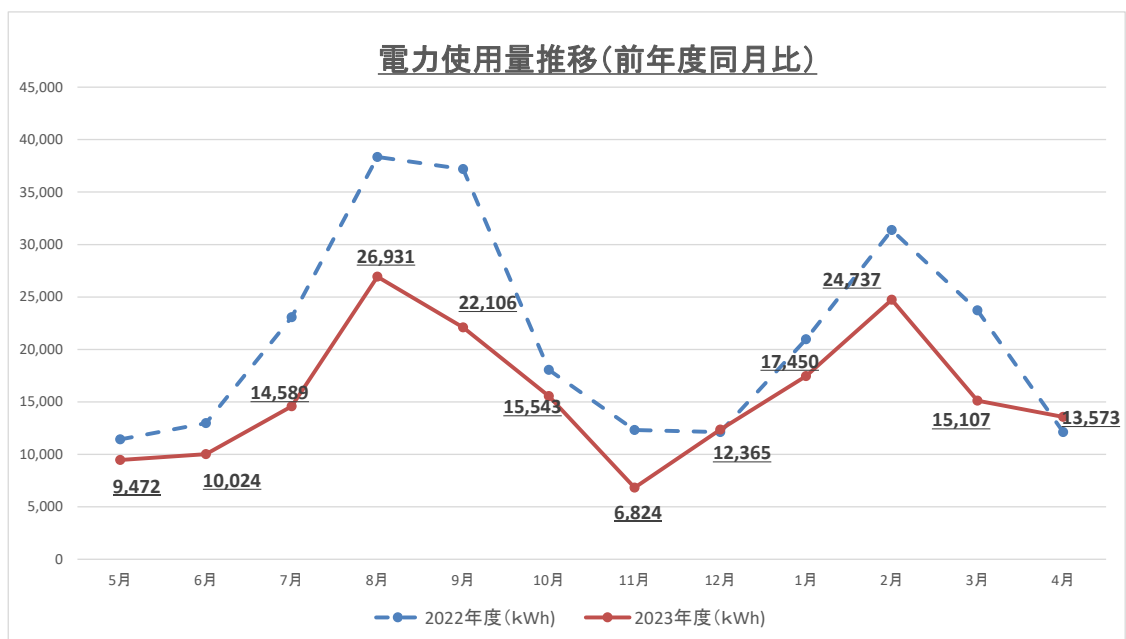


(右側の不稼働エリア消灯)

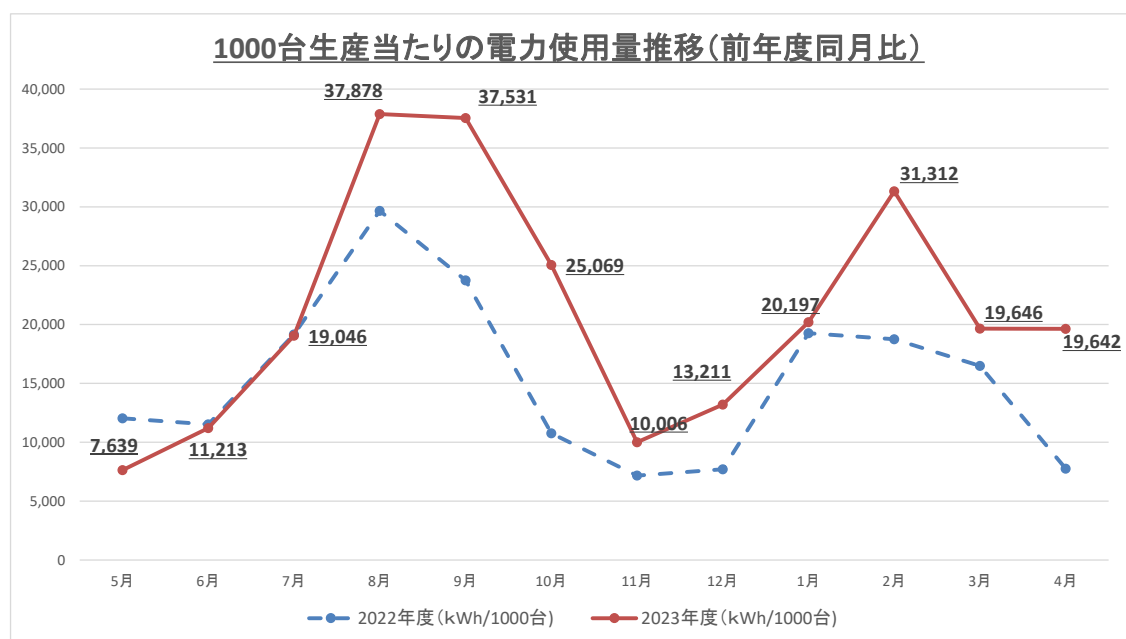
＜消し忘れ防止の人感センサー設置＞



(上部中央付近に人感センサー)



	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
2022年度 (kWh)	11,425	12,970	23,078	38,348	37,194	18,061	12,316	12,123	20,963	31,374	23,718	12,118
2023年度 (kWh)	9,472	10,024	14,589	26,931	22,106	15,543	6,824	12,365	17,450	24,737	15,107	13,573



	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
2022年度 (kWh/1000台)	12,039	11,529	19,152	29,658	23,751	10,757	7,169	7,707	19,268	18,753	16,494	7,763
2023年度 (kWh/1000台)	7,639	11,213	19,046	37,878	37,531	25,069	10,006	13,211	20,197	31,312	19,646	19,642

2023年度は、目標:222,689kWhに対し実績:168,491kWhと目標は大きく下回っているが、管理指標として見ていた1,000台当たりでの比較ではおよそ36%ほどの増加となっている。これは、客先の生産台数調整の影響が大きく、実際に2023年度のうち実に11カ月が1,000台を大幅に割り込む生産となっており、固定的に発生する消費電力が生産台数で薄まることが無かったためと考えられる。実際に総量ベースでの消費電力は常に昨年実績を下回って推移していることから生産台数に応じた稼働日や作業時間の調整取組みでの省エネ、節電努力は相当範囲で頭打ちだったと考える。

このため、従来の1,000台基準での管理指標とは異なる管理方法を検討したい。

2. 自動車燃料使用量の削減

以下の取組を実施

(1)アイドリングストップ徹底、急発進・停止禁止などのエコドライブについて繰り返し指導。

(2)社有車をガソリン車からハイブリッド車に更新。

これらを継続して実施し、自動車燃料使用量は、目標:4,299リットルに対し、

実績:2,995リットル、2020年度比で△31.4%の結果であった。

また、顧客への製品配送委託先に、トラック運搬時、荷物は極力満載にし、また混載供給に心掛け、帰り便で荷物を引取る等、効率的に運用するよう、間接的に燃料使用量削減を継続し申し入れていく。

①毎朝ドライバーミーティングを実施し徹底



②帰り便で顧客からの支給品引取り



3. 廃棄物の削減

以下の取組を実施

(1)再利用の拡大

①部品納入業者から搬入されるダンボール箱、木製パレットについて、再利用するため、持ち帰って貰うようきめ細かく分類し、それぞれ継続して依頼。

②事務所で使用するシートペーパー、及び構内使用紙袋等の再使用のルールを定め、回収容器も決めて継続運用。

(2)部品納入用専用容器を拡大作成し、木製パレット等の産業廃棄物の発生を削減。

(3)納品業者から納入された時に使用している各種緩衝材、梱包用ラップ材等は、納入業者に持帰って貰うように順次依頼。

(4)社内で発生するプラスチック類、木製パレット、ダンボール容器類等について、分別回収を徹底し、再生リサイクル化を拡大。

これらの再生リサイクル活動は定着している。

(5) 文書、帳票類の電子データ化の順次拡大を図り、紙類の消費を削減。

上記(1)～(5)の活動を継続し、一般廃棄物(可燃ごみ)排出量は目標の7.25トンに対し、実績は3.53トンへの削減効果となり2020年度実績の約48%であった。

大幅な削減となっているが、生産台数の減少による影響あるため、2020年実績を基準とした実績モニタリングは継続する。

①分別回収し、再生リサイクル化



②ダンボールの再生リサイクル化



③プラスチックの分別回収、再生リサイクル化



4. 水使用量の削減

以下の取組を実施

- (1) 工場トイレの手洗いに自動洗浄蛇口を設置(止め忘れや不要な流量抑制)
- (2) トイレ、手洗い場等の水使用場所に”節水”表示を実施、節水の意識付け
- (3) 使用頻度の少ない事務所棟1階トイレの常時使用停止(来客時のみ開放)

これらを継続して実施した結果、2023年度は目標:777m³に対し、実績:623m³となり目標達成。



自動センサ、表示による水使用量削減

VI. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に伴い、適用される環境関連法規は次の通りであり、これらの法規は現在及び過去3年間にわたって遵守され、また訴訟等はなく、問題ないことを確認した。
また、同様に関係当局からの指摘・指導はありません。

法 規 名	主な遵守事項	確認日	適合
・振動規制法	(1) 特定施設の設置、変更時の事前届出: 設置30日以前 (コンプレッサー)	R6.5.21	○
・騒音規制法	(2) 特定施設の設置、変更時の事前届出: 設置30日以前 (コンプレッサー)	R6.5.21	○
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の適正な処置		
	(1) 産業廃棄物保管基準 ・保管基準に適した適正な保管 ・表示板の掲示 (種類、責任者名、連絡先、掲示板の大きさ: 60cm×60cm以上)	R6.6.5	○
	(2) 委託基準 ・委託基準に則した処理業者への処理委託 ・所定事項を含めた契約書の締結、5年間保存	R6.6.5	○
	(3) マニフェスト ・産業廃棄物引き渡し時のマニフェストの交付 (法定記載事項の記入) ・A票の保存(5年間)、B2票、D、E票の期日内 (B2・D票は90日、E票は180日)返還確認 (未返還時は知事に報告義務) ・マニフェスト交付状況の知事への報告(毎年6月30日までに)	R6.6.5	○
	(4) 管理票交付等状況報告書 (6月末日まで)	R6.6.5	○
	(5) リサイクル証明書	R6.6.5	○
・消防法	防火管理		
	(1) 防火管理者の専任(工場・倉庫・事務所は50人以上)及び 所轄消防署長への届出 (2) 防火管理者の役割: 消防計画作成、消火・通報・避難訓練の 実施、消防設備・消火施設の点検・整備等	R6.5.22	○
・フロン排出抑制法	空調機器等の使用		
	・廃棄時におけるフロン類の回収依頼書又は委託確認書の交付 ・回収依頼書又は委託確認書並びに充填回収業者が交付した 引取証明書の3年間保存 [簡易点検(全ての管理第1種特定製品 : 7.5kW未満)] ・空調機の簡易点検(3か月以内ごと)及びフロン類の引き渡し 完了日から3年間の記録保存 [定期点検(フロン類の引き渡し完了日から3年間の記録保存)] ・7.5～50kW未満の空調機器: 3年に1回以上	R6.6.4	○

VII 2024年度 環 境 活 動 計 画

2024年度 環 境 活 動 計 画 書 & 教 育 計 画 書

重点活動項目	具 体 的 な 打 手	担当部門 (担当者)	2023 年 度											
			2023/5	6	7	8	9	10	11	12	2024/1	2	3	4
1. 電力使用量の削減	1. 不必要電灯の消灯	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	2. 待機電力の削減	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	3. 削減に繋がる改善案の提案	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
2. 自動車燃料使用量の削減	1. アイドリングストップの徹底	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	2. 輸送シフトのこまめな見直し	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
3. 廃棄物の削減	1. 紙類再使用の徹底	鵜鷹	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	2. 廃棄物の分別の徹底 (廃棄 or 再利用)	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	3. ダンボール再生サイクルの徹底活用	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	4. プラスチック再生サイクルの徹底活用	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	5. 削減に繋がる改善案の提案	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
4. 水道使用量の削減	1. 手洗い時の不要流水の削減	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	2. 削減に繋がる改善案の提案	鵜鷹、石村	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
【 教 育 計 画 】														
負荷削減活動への取り組み方	1. 使用エネルギー削減について	鵜鷹、石村	→			→			→			→		
	2. 廃棄物削減について	鵜鷹、石村	→			→			→			→		
	3. 環境活動レポート浸透	鵜鷹、石村	→			→			→			→		

計画：→
実績：→

VIII. 代表者による全体の評価と見直しの結果

承認	作成
阪口 2024/6/10	前田 2024/6/7

実施日時	2024年6月7日(金) 14:00～14:45
場所	1階会議室
提示資料	環境への負荷 (2023年度実績) 環境活動計画の内容 環境改善活動について
出席者	阪口社長、鶴鷹部長、前田部長、石村課長、福田マネージャー、木越マネージャー
評価内容	2023年度は、6月以降の主要取引先の生産台数制限により、操業時間減少が続き結果として環境負荷(環境目標項目)は低減方向で推移した。 1. 2023年度の環境負荷は、二酸化炭素総排出量・電力消費量・自動車燃料使用量 廃棄物排出量・上水使用量の全てについて目標を達成。 2. 一方、消費電力量に着目すると、実際消費量は昨年比でおよそ25%減少したものの月別の生産台数と電力使用量(kWh/1000台)の推移を見ると、稼働日数の少ない5月(空調も必要としない気候時期)を除いては全ての月において昨年度を超える結果となっている。これは、電力の固定的な消費部分の影響もあると考えられ、稼働日基準でも監視するなどの新たな管理基準の手法を検討したい。 3. 廃棄物の分別回収については、関係先からの苦情受付のあった2022年度以降、適切に運用徹底を図り、2023年度は内部、外部ともに指摘を受けることなく、一定の評価ができると考える。
見直し内容	実施体制については、見直し・変更はない。 1. 環境目標(2020年度基準での毎年0.5%ずつ削減)を継続する。 2. 廃棄物の分別徹底も引き続き正しく運用を行っていく。 3. 電力消費は従来基準に加え稼働日基準での削減動向も監視することで、不要なエネルギー消費の抑止を図る。
指示事項	1. 2024年度(2024年5月～2025年4月)の環境改善活動計画書に則り計画的な活動を展開すること。 2. 小集団活動や各種改善による作業効率、生産性を高め、稼働時間の短縮を図り省エネルギーに繋げること。 3. リサイクル化の妨げとならぬよう、廃棄物の分別回収を適切に実行すること。 4. 不稼働エリアの照明や設備等での消灯、電源OFFを徹底すること。 5. 職場のムダ(流出不適合、仕損、手直し作業)の減少・削減に取り組むこと。

(付1) 緊急非常事態発生時の訓練結果まとめ

総務部
2024/6/5

1. 訓練実施日時 2024年6月5日(水) 14:00～15:00 (本社工場、第2工場)
2. 訓練内容 近隣企業での出火想定の下、延焼リスクありとしての避難訓練、点呼確認
 ⇒安全迅速な避難と、逃げ遅れ者発生防止
 避難アナウンスから集合、点呼確認までの時間(実測)
 本社工場:3分12秒 第2工場:2分01秒

3. 訓練後のミーティング

- ・日時 2024年6月5日(水) 訓練終了後、各点呼チームごとに実施
- ・場所 各職場 (点呼チームは合計8チーム)
- ・取り纏め者 各職場の点呼担当者

3. ミーティングの内容抜粋

(1) 全体の感想

避難集合の迅速さ、スムーズさについては各チームとも良好な結果と捉えており、昨年よりも良くなっているとの感想も見受けられた。

(2) Goodポイント(継続すべき点、良かった点)

- ・去年よりもスムーズかつ迅速に避難していた。
- ・屋外への出口で混雑することなく整然と避難できていた。
- ・避難放送が聞きとりやすかった。
- ・班の数が増えた事で、点呼確認がスムーズにできた。

(3) Moreポイント(今後の課題や工夫ポイント)

- ・点呼の際、自分の班を理解していない人がいたが、日ごろから掲示周知しておくとうい。
- ・また、常時点呼用紙を配置しておくとう、緊急時に役立つ。
- ・緊急避難のアナウンスは、冒頭に「緊急放送です」と入れることで、全員が通常と違う放送だと分かれば、より注意深くアナウンスを聞くようになる。



避難集合、点呼確認風景



実施後の班別ミーティング風景

4. 訓練実施総括

今回の訓練で避難アナウンスから点呼確認完了までが2～3分であることから、緊急時避難の模擬訓練としては概ね良好な結果が得られている。

一方で大規模災害等を想定すると、自衛消防隊の役割分担の周知に留まらず、自消防隊の各班ごとに定期的なショートミーティングや簡易的な想定訓練を取り入れていくことも検討課題とする。

以上

環境改善活動について

環境管理責任者

従来から環境負荷について、資源・エネルギー削減の取り組みを実施しており、2023年度(2023/5～2024/4)実績は、以下の全ての環境目標を達成した。

- | | |
|-----------|-------------|
| ①二酸化炭素排出量 | ②電力使用量 |
| ③自動車燃料使用量 | ④産業廃棄物排出量削減 |
| ⑤水使用量 | |

全従業員の経験や知恵をもとに、アイデアを出し合い、相互に協力して、次の環境改善活動を強力に推し進めること。

電力使用量の削減のために

- ①昼休み時間の完全消灯。
- ②不稼働エリアの消灯徹底。
- ③終業後の速やかな退社を徹底し、余剰電力の消費を抑止する。
- ④空調設備の適切な使用。
 - ・適切な温度設定と感染症対策の換気を図りつつ
 - 季節や時期を考慮したこまめな空調稼働のON/OFF

廃棄物の減少のために

- ①廃棄物の分別徹底と減量化に取り組む(一般ゴミ・ビニル類・キャップ)。
- ②再使用、再利用、リサイクル化を拡大実施する。
- ③リサイクル化を容易にするため、適切な分別回収に務める。

効率的な生産活動を行うために

- ①小集団活動や各種改善を積み重ねて、作業時間の短縮・省エネルギーに務めること。
- ②職場のムダ(流出不適合・社内発見不具合・部品破損)の減少・削減に取り組むこと。

以 上